

大津皇子の被死らしめらえし時に磐余の池の堤にして涙を流して作りませる歌一首

百傳	磐余池介	鳴鴨乎	今日耳見哉	雲隠去牟
ももつたふ	磐余の池に	鳴く鴨を	今日のみ見てや	雲隠りなむ
ももつたふ	いはれのいけに	なくかもを	けふのみみてや	くもかくりなむ
(枕詞)	磐余の池に	鳴く鴨を	今日最後に見て	私は死んでいくのだろうか

万葉集
卷三 416
大津皇子

<https://kochi-esc.sakura.ne.jp/wordpress/%e4%b8%87%e8%91%89%e3%81%ae%e5%9c%b0%e5%ad%a6/>